

【経営理念】

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校

～「ABC」(AあたりまえのことをBばかりにしないでCちゃんとやる)～

評価

A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】

学校運営協議会（学校評価分）

第1回	令和7年 7月10日（木）
第2回	令和7年12月18日（木）
第3回	令和8年 3月 5日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和7年12月16日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに東京都及び本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	◇習熟の時間を活用して、基礎学力の定着を図る。	○ベーシック・ドリル診断テストにて、全児童の正答率が7割を上回っている。	31 (△9)	C	正答率は7割未満だった。一方で、今年度から、算数に限らず、習熟の時間に児童の実態に応じた内容に取り組みさせることで基礎学力の定着を実感する児童が微増した。	習熟の時間において、算数に限らず、児童の学習状況に応じた内容を取り入れ、学力向上を図る。あわせて、効果的な学習内容や指導法を校内で共有し、学習の質を高める。	概ね評価できる。習熟の時間の学習内容を工夫し、学力を向上させてもらいたい。	A
		◇期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。	21 (▼26)	C	保護者から肯定的な評価を多く得た。一方で、期末テストを負担に感じ、学習意欲を失う児童も少なくなかった。学習の動機づけとして行う効果は限定的だった。	来年度は、期末テストを廃止するが、各学級では、漢字50問テストや算数のたしかめテストを継続するとともに、放課後学習教室の充実を図る。	小テストや単元テストで、理解不足を早期に把握し、学習支援に努めてもらいたい。	A
豊かな心の育成	いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	94 (▼3)	A	生活指導夕会や特別支援校内委員会で、いじめの認知確認や報告、協議を行っている。一方で、昨年度同様、保護者からは学校のいじめ対策が「わからない」という回答が多く寄せられた。学校の取組を周知していくことが求められる。	校内でのいじめ認知・報告・対応協議は継続して行う。保護者には、年度初めの保護者会で「いじめ防止対策基本方針」や対策内容を説明し、学校ホームページにも掲載して周知する。	概ね評価できる。今後、保護者や地域にいじめ撲滅への取組の内容や成果を積極的に周知してもらいたい。	A
		◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【德育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を德育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。 ○教員の自己評価において、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	81 (▼10)	A	児童や保護者から7割以上の肯定的評価を得た。教員は手本となって、率先して挨拶や礼儀作法の指導を行っている。校外学習では、挨拶礼儀を重んじる児童の姿が見られた。一方で、日常場面で自ら挨拶することには課題が残されている。	挨拶は、德育科の授業だけでなく、学校生活全体で肯定的に捉えられる必要がある。そのため、より一層の声掛けや「あいさつ運動」、朝の会、授業の始まりと終わりの挨拶の習慣化など、様々な取り組みを進めていく。	概ね評価できる。常に教師自らも人格を磨きながら、挨拶や人権尊重の指導を徹底し、児童同士の関係性をより良くしてもらいたい。	A
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	◇検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ◇「ほけんだより」を発行して、保護者へ健康の保持増進について啓発する。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	88 (▼4)	A	児童や保護者から7割以上の肯定的評価を得た。児童には、保健講話を実施し、健康意識の向上を促した。保護者には、「ほけんだより」を通じて健康啓発を行った。一方で、デジタル配信によるお便りの未読や、手洗い・うがいの徹底不足があった。	今年度の取り組みを継続するとともに、教室掲示用の「ほけんだより」を作成し、児童の健康への意識を高める。保健委員会では児童の健康課題を取り上げ、関連する活動を行う。	高く評価できる。児童向けにも季節ごとの健康課題や感染症予防等の情報を発信し、健康意識を高めてほしい。	A
		◇中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。	75 (▼13)	B	体力調査総合評価「C」以上の割合は60%を超え、前年度との比較でも向上が見られた。外遊びを推奨し、長縄集会や体力向上月間に取り組むことで、運動する習慣の定着を図った。一方で、外遊びに対する肯定的評価は高学年になるほど低下した。	今年度の取り組みを継続するとともに、高学年には難易度や達成感のある遊びを紹介する。保健の授業を通して、外遊びが体力増進やストレス解消に繋がることを意識させる。	高く評価できる。今後も、児童の体力向上のための活動を継続してもらいたい。	A
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にしたいを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	◇地域人材を活用した授業を積極的に行うことで、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	○児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が7割を上回っている。	50 (△25)	B	保護者から約6割の肯定的評価を得た。地域の方と積極的に連携し、教育活動を進めたことにより、「まちをよりよくしたい」と回答した児童が8割を超えた。	毎年まちづくり学習については、実践が重ねられ、改善している。各学年の実践の詳細(実施案等)を、次年度に確実に引き継いでいく。	高く評価できる。地域人材との活動を継続し地域との繋がりを児童に実感させたい。	A
		◇主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を発信したり、社会科とも関連させたりしながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上	53 (▼13)	B	保護者から7割の肯定的評価を得た。児童が、学習内容に関心を示し、調べ学習を熱心に行う姿が見られた。一方で、児童の相手に伝える力を養うことや学びの成果を保護者に伝えることに課題が残されている。	XやHP、学校便りで「まちづくり」について発信していることを保護者に改めて周知する。児童に効果的な伝え方を指導し、発表会を積極的に開き、優れた発表のよさを考えさせ、そのよさを自分の発表に取り入れさせる。	概ね評価できる。発表の機会を増やして、児童の主体性と伝える力を育ててもらいたい。「まちづくり」の情報発信の取組は継続してほしい。	B